

美術館を楽しもう

学芸統括・井上英明



アートコラム最終回に寄せて

すべての人へ美術・芸術にふれてほしい

これまで「アートコラム」を愛読いただき、ありがとうございました。

思い出せば、執筆が始まったのは、平成29年に守山市との間で締結した包括連携協定がきっかけでした。

日常の中にアンテナを張ってコラムのネタ探しをする執筆は、大変な時もありましたが、普段の学芸員業務では気付けないことに気付くことができました。

学芸員が著名な美術品を語るのはもちろん誇らしいことですが、私たちは、芸術美術に造形の深い愛好家ばかりではなく、ファミリー層や子どもたちにも幅広く美術に親しんでもらえることが佐川美術館のスタイルであり使命だと思っています。

現在は全館のメンテナンスで長期休館をしていますが、再開後も幅広い人たちにとって魅力的な企画展や小学生の芸術鑑賞教室、生涯学習支援講座「美学」、「守山市民の日」を開催していくつもりです。

読者の皆さんも、佐川美術館の再開を楽しみにしていてください。



佐川美術館 勤務10年目
学芸員 藤井 康憲さん(40歳)
専門：日本古美術

8年前から連載を開始したアートコラムも今号で100回目。展覧会や作品についての内容から、美術館の裏側や学芸員のよもやま話など、さまざま切り口でコラムをお届けしてきましたが、節目となる今回を区切りとしてお休みさせていただきます。最後となる今号では、美術館の楽しみ方についてお話しします。

美術館の楽しみ方と言つても千差万別で、気になる展覧会を見たり、お気に入りの作品に会いに行つたりと人それぞれです。せっかく美術館に行くのであれば、自分流の楽しみ方をつくりたいものです。私の場合、職業病的に展示室の造りや照明の担当の方を見るのが好きで、作品そっちのけで見入ってしまいます。普段何気なく見ている展覧会も造作や照明によって印象が大きく変わつてくる、言うなればメイクアップを楽しむということです。また、ミュージアムショップに売られているアートグッズ、特に「当地の名産品」にちなんだものを発見するとテンションが上がります。

美術というとなんだか難しいと感じる人もいるかもしれません。確かに美術の領域は多種多様で、万人の好みに合わない、一見すると難解なものも多くありますが、そこで作品鑑賞以外にも自分流の楽しみ方を作る、つまりは関心を膨らませることこそが美術に触れる第一歩だと思います。

佐川美術館は現在改修工事のため休館していますが、再開後もさまざまな展覧会やイベントを企画しますが、ぜひ自分流の楽しみ方を探しに来てください。